

各 位

会社名 アールビバン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 野澤 克巳
 (JASDAQ・コード 7523)
 問合せ先 経営企画室マネージャー 中島 章裕
 電話番号 03-5159-7177

第2四半期累計期間の業績予想値と決算値との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。
 また、通期連結業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の予想値と実績値との差異(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想(A)	3,260	330	350	170	12.37
今 回 実 績(B)	3,345	527	486	268	19.51
増 減 額(B-A)	85	197	136	98	—
増 減 率	2.6%	59.7%	38.9%	57.6%	—
(参考)前期第2四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	3,739	389	454	228	16.62

平成 22 年 3 月期第 2 四半期個別累計期間の予想値と実績値との差異(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想(A)	980	△100	△50	△90	△6.55
今 回 実 績(B)	1,045	25	46	△23	△1.69
増 減 額(B-A)	65	125	96	67	—
増 減 率	6.6%	—	—	—	—
(参考)前期第2四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	1,261	△46	78	△104	△7.56

2. 通期業績予想数値の修正

平成 22 年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成 21 年4月1日～平成 22 年3月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想(A)	6,090	540	570	260	18.91
今 回 修 正(B)	6,070	550	510	220	16.00
増 減 額(B-A)	△20	10	△60	△40	—
増 減 率	△0.3%	1.9%	△10.5%	△15.4%	—
(参考)前期実績 (平成 21 年3月期)	6,888	537	521	24	1.76

平成 22 年3月期通期個別結業績予想数値の修正(平成 21 年4月1日～平成 22 年3月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想(A)	1,850	△200	△130	△200	△14.55
今 回 修 正(B)	1,910	△100	△50	△250	△18.19
増 減 額(B-A)	60	100	80	△50	—
増 減 率	3.2%	—	—	—	—
(参考)前期実績 (平成 21 年3月期)	2,280	△73	3	△509	△37.05

3. 差異及び修正の理由

(1) 平成 22 年3月期第2四半期累計期間の予想値と実績値との差異理由

(連結)

売上高につきましては、アート関連事業、金融サービス事業において当初予想を若干上回る実績となり、グループ全体として原価率の改善及び経費削減等の諸施策を実施してまいりました結果、営業利益、経常利益及び四半期純利益が前回発表の予想を上回る結果となりました。

(個別)

アート関連事業の催事販売において、お客様視点に立った営業力強化に一層注力したことにより、売上高は当初予想を上回る実績となりました。また、会場費等の販売変動費削減を中心とする効率化を進めた結果、営業利益、経常利益及び四半期純利益は、前回発表の予想を上回る結果となりました。

(2) 平成 22 年3月期通期業績予想数値の修正理由

(連結)

リゾート事業において個人消費低迷の影響でホテルの宿泊人数が減少していること、および健康産業事業においてはフィットネスクラブの新規会員獲得が厳しい状況で推移していること等の影響で、売上は前回発表の予想を若干下回る見込みです。また、為替差損等の発生により、経常利益、当期純利益は前回発表の予想を下回る見込みです。

(個別)

上期に引き続き販売管理費の削減に努めることにより、営業利益、経常利益は前回発表の予想を上回る見込みですが、リゾート・健康産業事業子会社に対する貸倒引当金繰入額 220 百万円を特別損失として計上するため、当期純利益は前回発表の予想を下回る見込みです。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上